

挨拶

就任挨拶

副会長

萩原恒昭



ただいまご紹介にあずかりました凸版印刷の萩原でございます。副会長という大変名誉な職に選任されまして、1年間頑張っていきたいと思っているところでございます。

ちょっと思い起こしてみますと、私は、実は、皆さんの多くの方々と同様に入社当時から知財にかかわっておりまして、そういう経歴で副会長を仰せつかるといことは、珍しいというか、初めてかもしれませんね。新入社員当時から今まで、何かしらずっと知財協の活動に関わってまいりまして、その意味では知財協に育てていただいたと思っております。

ご承知のように1年目とか、2年目は、研修コースのAコースとか、Bコースとかに出るわけですね。当時は、今もそうかもしれませんが、科学技術館の大きなホールでやるわけですが、このホールはシートがふかふかしておりまして、しかも講師の方がとても朗々としゃべられるものですから、本音を申しますとほんとうにいい休憩の場であったという感じが、今、思い起こせばあるわけでございます。その休憩の分だけ会社で頑張ったということで、ご理解いただければと思います。

それから、もうちょっと私自身経験を積み重ねてからは、専門委員会の活動に参加させていただきまして、ソフトウェア委員会とか、今はなくなりましたが、マルチメディア委員会とか、著作権委員会の前身のデジタルコンテンツ委員会とか、そのような委員会でいろいろ鍛えていただきました。

非常に大きな思い出は、ソフトウェア委員会の委員長をやっていたときに、なぜか当時の執行部から委員会の数を減らせという話がおきてきまして、いろいろないきさつがあったと思うんですけども、我々そのときの各委員会の委員長に集まっていただいて、おかしいんじゃないかという所謂血判書を作成しまして、執行部に反対したというようなこともございました。今、思うと、よくやったなと思いますけれども、それだけ委員会活動の重要さの認識と愛着を持っていたのだと思います。

そういう反乱分子的なところもあるのですけれども、なぜか2009年度に理事長を拝命いたしまして、当時、リーマンショックの影響で、ほんとうに予算の厳しい状況の中でどうやって運営していくんだというようなことを、当時の専務理事の方といろいろ悩んだことがございました。

いずれにしても、そういう形で、ほんとうに私の今ある立場は、繰り返しになりますが知財協に育てていただいたというふうに思っております。副会長という立場でございますけれども、何かしら恩返しができるればいいなというふうに思っているところでございます。

ぜひ、この1年間、そのような思いで一緒に知財協の活動に携わっていただければいいなと考えておりますので、皆様からのご支援やご指導をよろしくお願いいたします。

以上でございます。ありがとうございました。